

「アレルギーの臨床」に寄せる - 826 -
矢追インパクト療法による糖尿病治療

【矢追インパクト療法】

東京渋谷 山脇診療所

山脇 昂

矢追インパクト療法は糖尿病に運動代替療法として作用します。筋肉中の脂肪酸の燃焼を助長し、体が温かくなります。糖尿病患者さんにインシュリン注射をし、糖を燃焼させ血糖を下げますが、これでは今現在より体は温かくなりませんし、基礎体温も上がりません。矢追インパクト療法は基礎体温を0～1℃以下上昇させます。糖尿病は急速に老化することを意味しますが、インシュリンはこの急速な老化を、緩慢なスピードにすることは可能ですが、それ以上ではありません。矢追インパクト療法は筋肉中の脂肪酸を燃焼させる刺激となりますから、アデポネクチンが作用しAMPキナーゼが働き(一方GLT4は刺激しません)、ATPが産生され、燃焼が良くなり、代謝が盛んになり、筋収縮力強化し、体が温かくなり、諸関節の可動性が良くなり、リフレッシュします。体が温かくなることはサーモグラフィーを使用するとすぐ証明できます。私はBMI30以上の糖尿病の人3名(男性1名・女性2名)を血中中性脂肪とHbA1cを数か月追ひ、次第に下降して来るのを、わがホームページに載せました(「山脇診療所」で検索してみてください)。この人達はいずれも体力が回復し、皮膚もきめ細かくなっています。1回やると一風呂浴びた様だと表現する人もいました。

減感作療法をやられているDr.側も患者さん側もアレルギーの事ばかりに気を取られて、このことに気付いていないのです。アレルギー反応が起こるにしても、その反応を治癒に導くにしても体が温かくならなるとだめなのです。アレルギー反応を抑えるのにNSAIDsやステロイドホルモンを使用しますが、これらは体を冷やして反応を抑えるので、体には良くないと安保徹先生は強調されています。それに比し矢追インパクト療法は体を温めて治しますから、本来のごく自然な治し方なのです。Antiageingとかwellageing等頻繁に言われて、色々な治療法が試みられていますが、皮内刺激による神経軸索反射を利用するantidromic(逆走)刺激が体温を上げるのに最も効果的だと思います。日常口に入れるカプサイシン・芥子・ワサビ等香辛料もこの反応を利用しています。例としてある達磨ストーブを考えてみましょう。その中に湿った石炭の塊がたくさん入っていて、その上に木っ端とか新聞紙を丸めたものとか入っていて、マッチで火をつけたとしましょう。不完全

全燃焼で窓の外の煙突から黒煙がモクモクと上がっている。公害の垂れ流し状態といえます。ストーブは全然温かくない。ストーブとしての使命は果たしていない。この状態が人間では糖尿病状態と言えます。そこに新たな火種を入れ、かき回してやる。するとストーブはゴーと音を立てて燃え上がる。ストーブは温かくなり、本来の働きをし、煙突からの公害の撒き散らしもなくなる。煙突の中に溜まった煤も消えます。これは人間の動脈硬化が改善されるのに例えられます。この新たな火種が矢追インパクト療法なのです。一方不完全燃焼中のストーブに、上からヤカンで水を掛け冷やしてしまう。このことがNSAIDsやステロイドホルモンのやる役割です。だからこれらを可能な限り使用しないか、なるべく短期間の使用にしてくださいと安保徹先生が述べておられます。

人間に不利益反射と考えられている神経軸索反射を利用し、熱を産生し、基礎体温を上げる利益反射に変えるのです。アナフィラキシーショックや声門浮腫は急速に燃焼させすぎると起こる不利益反射です。矢追インパクト療法は数種アレルギーを希釈液(烏居)を用いて10億倍～1兆倍に超微希釈し、0.001～0.005cc皮内注射する療法です。皮内注射は数個～数十個やります。超微希釈してありますからアナフィラキシーショックや声門浮腫は起こりません。体は温かくなり、他から見て血色が良くなり、気分が良くなったと本人は言います。ここから派生する色々な疾患に対処できます。人間の骨格は関節群で出来上がっていますから、関節の稼動域が広がるということは肩関節の痛みや変形性股関節症や膝関節症にも効果的です。腰部脊柱管狭窄症等の腰痛にも良く効きます。亀を脅かした時、首を引っ込めて目だけキョロキョロさせていますが、人間の肩こり、猫背も色々なストレスで首における諸関節が縮んでロックし、筋肉が凝り固まった状態ですから、このロック状態を開放してやると、肩こり・猫背から開放され、首が自由に動くようになります。すると身長が変わりますので、前後の写真と身長を測ります。猫背を治すことはうつ病の治療にも繋がりますし、お年寄りの骨粗鬆症から来る円背や亀背や側弯症の矯正にも骨の側からではなく背中を支える筋肉や腱滑膜軟骨等の軟部組織からのアプローチです(整形外科的骨中心の考え方ではありません)。関節リウマチにも最適です。腫脹・疼痛・発赤は次第に緩解してきます。胸部も関節群から成り立っていますから、酷い咳発作とか胸部打撲肋骨骨折時狭心症時の呼吸困難はこれら関節群がロックし、浅い呼吸しか出来なくなることです。矢追インパクト療法を胸壁皮膚に数か所～数十か所やると関節ロックが解除され深い呼吸が出来ようになります。あ、助かった、と言うようになり救急にも使用できます。これらは皆、体が温かくなることから起こることです。